

【神奈川区】令和3年第1回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和3年2月5日 9時52分 ～ 11時16分
場 所	神奈川区役所 本館5階 大会議室
出席者	<p>【座長】中山 大輔 議員</p> <p>【議員：4名】藤代 哲夫 議員、小松 範昭 議員、竹内 康洋 議員、宇佐美 さやか 議員</p> <p>【神奈川区：28名】高田 靖 区長、日比野 政芳 副区長、小西 美香子 福祉保健センター長、堀 敏彦 福祉保健センター担当部長、西嶋 祐一 神奈川土木事務所長、星野 雅明 神奈川消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和3年度神奈川区編成予算案総括について</p> <p>2 令和3年度神奈川区編成予算自主企画事業費案について</p>
発言の旨	<p>【議題1及び2】</p> <p>宇佐美議員 5頁「地域防災力向上事業」の「イ区役所災害対応力の強化」にある入江川第二派川の位置はどのあたりか。</p> <p>増田総務課長 子安の浜通りに沿って漁船が係留されているあたりが、入江川第二派川です。</p> <p>宇佐美議員 6頁「地域防災力向上事業」の「オ福祉避難所関連事業」の新型コロナウイルス感染症対策に係る必要物品の配備だが、4月から6月までの間にすべての福祉避難所へ配備するのか。</p> <p>野田高齢・障害支援課長 まだ、時期については決めておりませんが、できるだけ早い時期、上半期に配備したいと考えております。</p> <p>宇佐美議員 カッコ書きに4月～6月とあるが、その時期には配備したいということか。</p> <p>野田高齢・障害支援課長 そのようにしていきたいと考えております。</p>

宇佐美議員 　いつ災害が起きるかわからない中で、早く配備して欲しい。

　次に、13頁「かながわ安心子育て支援事業」の「カDV対応に関わる専門職の対応力強化」だが、区役所の職員が受ける研修なのか。

岩松こども家庭支援課長 　これは、区の職員の対応力を上げるための事業です。被害者向けのカウンセリングの事業を実施していましたが、タイミング良くカウンセリングを紹介することが難しい状況があり、職員のスキルアップを図ることで、知識や感度を高めて支援に結び付けたいと思っております。

宇佐美議員 　DVの被害は増えているのか。

岩松こども家庭支援課長 　神奈川区では、年間300件ほどのDVの相談を受けております。令和2年度の4月～12月までの相談件数は前年の相談件数と比べて、1.4倍に増えております。そういった中で、職員も日々いろいろな相談を受けますので、アンテナをしっかりと張って、早期にご支援につなげたいということで、この事業を実施します。

宇佐美議員 　見えないところでDVが起きている。外出を控える中で、察知するのが困難な状況での職員のスキルアップだと認識した。

　15頁「保育・教育施設防災アドバイザー派遣事業」の予算が増えているが、横浜市立大学へ分析を依頼することで増えているのか。

岩松こども家庭支援課長 　この分析とフィードバックにつきましては、横浜市立大学との協定の中で実施しておりますので、予算がかかるというわけではありません。今回増えた部分については、「エ防災教材の制作と提供」で予算を計上しています。

宇佐美議員 　エの教材だが、約130施設に配布するとあるが、何セットずつ配布する予定か。

岩松こども家庭支援課長 　どういうものを作るか協議中ですが、今回の取組を通じて、施設の防災力を高めるには、職員の意識を高めるのは大事ですが、通っている園児、お子様の意識を高めることも大事ですので、子どもが遊びながら使え

るような教材を考えております。配布数については、予算など勘案しながら考えて行きたいと思っています。今は、配布数までは決まっていません。

宇佐美議員 お子さんが使えるようにすると、すぐに壊れては意味がないので、検討していいものを作って欲しい。

17頁「介護予防・高齢者支援事業」の予算が大幅に増えているが、コロナ禍で外出しないために体が衰えているということで、予算が増えたということか。

野田高齢・障害支援課長 自粛することで、生活が不活性・不活性化しますので体力や筋力が衰える、あるいは家にとじこもることで他人との交流が減り、認知の問題ですとか鬱的になられるなど、相談の現場でも実感しているところです。

宇佐美議員 予防のために新規でバスの車内ディスプレイへ映像の掲出を予算化しているが、見る方はもともと外出しているのではないか。見た方が友人に教えてあげてあげてを目的としているのか。

野田高齢・障害支援課長 そういったこともあると思いますし、外出を控えている方でも、買い物や通院等最小限の外出で、バスに乗車されている方もいらっしゃいます。ご家族の方が見て声をかけていただく等も考えられますので、新しい場としてバス車内のディスプレイへの掲出をしていきたいと思っております。

宇佐美議員 安全に防止策をして外出して良いと発信していくことは必要だと思う。バスを利用した際に映像を確認したい。

20頁「放課後児童健全育成連携強化事業」だが学童クラブも一定基準を満たすように移転できたので、新しい形での研修を実施するということか。

高安こども家庭支援課担当課長 コロナ関係のこともございましたが、来年度もオンラインを検討しながら進めていきたいと考えて予算化しております。

宇佐美議員 職員が密になっていて心配だという声もあるので、寄り添って職員の皆さんも通っている方々も安心して利用できるようにして欲しい。

35頁「民生委員・児童委員活動支援事業」の「民生委員活動に使用する物品の作成」は何を配布するのか

新井福祉保健課長 令和2年度は手を拭くためのものや不織布のマスクなどの訪問活動用に物品を配布させていただいております。例年、訪問活動を支援するために民生委員の方と協議しながら新たなものを作り配布しております。

宇佐美議員 訪問するために必要なものということだが、現在、民生委員は訪問をしているのか。

新井福祉保健課長 訪問の仕方を工夫させていただいておまして、今まで通りのやり方で訪問しているところが約半数です。また、緩やかな見守りと申しまして、洗濯物が干しっぱなしになっていないか、雨戸が閉まりっぱなしになっていないかなどを見ながら、もしかしたら家でお困りになっているのではと状況を勘案しながら、訪問をしているところが半数です。

宇佐美議員 予算が減っているが、民生委員の活動が大変なのに減らして大丈夫か。

新井福祉保健課長 令和2年度は、民生委員が活動する地区の明細地図の作成を行っており、終了したため予算が減少しています。配布物品等の予算は減少しておりません。

竹内議員 WHOでも提唱しているフィジカルディスタンス、物理的な体の距離を保つことが感染症予防では必要だが、区民まつりをはじめ顔をあわせることで生まれた地域力が神奈川区のすばらしい財産でもあったと思う。さまざまな福祉の課題や高齢者のみならず地域のつながりもできてきた事実がある。今ある課題認識と工夫していることは何か。

高田区長 基本的に考えていることは、コロナの影響がある中でも確実に進めなければいけないと考えております。例えば、防災対策につきましてはいつ地震が起きるか、風水害が来るかということは、コロナに関係なくございますので、コロナに対応しつつ、取り組んでいけるような予算を考えさせていただきました。また、日々の子育て、高齢者支援、障害者支援、健康づくりなど、これは毎日のことで、これもコロナに対応しながら着実に進めたいということで工夫させていただいております。

地域活動につきましては、地域SNS等の活用を研究させていただきたいと思っ

ております。本当は顔を合わせて交流させていただくのが一番ですが、地域の方々からもそうしたいけれどなかなかできないと、お困りの声を聴いております。地域の方と意見交換しながら、いい方法を考えていきたいと考えております。

竹内議員 デジタル庁等の立ち上げの話もあり、地域で、町内会等でSNSの話もあるが、正直いうとなかなか簡単ではないと思う。世の中全体が、デジタル庁をはじめ議論されていく中、便利な世の中になっていくが、地域に寄り添って取り残されない環境を作っていくことが大切だと思う。丁寧にやることが優先であって、スピードよりそこが大切なところである。

例えば、31頁「地域力アップ推進事業」の「地域情報の発信等」で、新規の「地域SNSを活用した地域のつながりづくりを支援するための手法等について検討」ということだが、地域のSNSに対するそれぞれの違いもあると思うが、どんな事を進めていくのか。

谷口区政推進課長 スマホやパソコンを使ったつながりを作っていくことがこの事業の目的ですが、それだけではなくて、これまでどおり広報よこはま等紙資料を活用して地域づくりにつなげていきたいと考えております。

安達地域振興課長 地域振興課の中に区民活動支援センターという機能があります。区民活動をされている方々に登録していただいておりますが、こちらの方々にオンラインを活用していただけるように予算計上させていただいております。すでにWeb会議システムのズーム等を活用している団体がございますが、使い方が分からない団体もございますので、Web会議システムの活用方法についての講座等も開催したいと考えております。

竹内議員 コロナが終息して集まれることが一番望ましいことであると思うが、それに至るまで、支援を必要とする方が置き去りにならないように丁寧に対応して欲しい。

藤代議員 昨年からの新型コロナウイルス感染症によって、問題が多岐にわたって増えている。児童虐待の増加やがん検診や健康診断を含めて感染症が怖くて受診を控える等、コロナによって様々な課題があると実感している。児童虐待や検診を控えていることについて福祉保健センターの方で把握しているか。

岩松こども家庭支援課長 児童虐待の相談件数は、昨年とあまり変わっていないというのが神奈川区の状況ですが、重篤化してからご相談に至るケースが増えています。従前は育児放棄、ネグレクトが多かったのですが、このところお子様の体に傷あとがあるという身体虐待の状況での通告が増えている状況です。

藤代議員 がん検診はどうか。

小西福祉保健センター長 がん検診については、横浜市全体では受診率が減っていると聞いておりますが、区別の資料はございません。

藤代議員 コロナ対応を丁寧にやって欲しい。デジタル化、脱炭素化など、コロナの中にあっても市民の皆さんの生活に不可欠な取り組みは、やっていかなければならない。

36頁「まちづくり推進事業」の「企画調整事業」だが、新たに生じるニーズや課題を把握する調査を行うとあるが、例年やっているのか、今回新たに始める事業なのか

谷口区政推進課長 企画調整事業は新規の事業です。数年に1回、区民意識調査という形で、毎回同じ内容の調査を行っていたものですが、掘り下げてテーマを絞って実施するものです。

藤代議員 テーマを絞るという話があったが、まさに今年はコロナで様々な問題がある。地域によっても様々、人によっても様々であり、今後把握する作業については、情報提供しながら調査を行って欲しい。取り組むべき課題も多く、地域の身近なところにいる区役所が、様々な問題や相談を受けると思うが、丁寧に工夫をした取組をして欲しい。

小松議員 コロナ禍で世の中が変わってきた。当たり前のことが当たり前でなくなっている中で、こういう予算が組まれたと思うが、先程、宇佐美議員からも質問があった、17頁「介護予防・高齢者支援事業」の「ア介護予防普及啓発事業」の三つの取組について、緊急事態宣言の中でどう取り組んでいくのか。

野田高齢・障害支援課長 例えば「体力測定de健康アップ講座」などは、講座の多くの開催は難しいところですが、参加された方やお手伝いいただいた方にアン

ケートを取り、取り組んでいる家庭での情報などを、シニア通信としてお知らせして行きます。また、アンケートに答えていただいた方に、区独自に作成した手ぬぐいをお送りし、手ぬぐい体操を実践してもらうことを検討中ですが、デジタルサイネージで手ぬぐい体操の紹介を行うことや、DVD化することも検討しているところです。

小松議員 高齢者が安心して外出していただける部分を十分に注意して進めて欲しい。

6頁の「新型コロナウイルス感染症対策に係る必要物品の配備」だが、必要物品にはどのようなものがあるか。

野田高齢・障害支援課長 各施設にアンケートを取り、マスク・手袋・体温計・エアベッド等足りないという声を予算化していますが、1年近く経過しておりますので、再度現場に調査をして必要なものを配備していきたいと思います。

小松議員 今までマスクや消毒液などは十分そろえていると思う。パルスオキシメーターや、これから4月に向けて保健所を中心としてワクチン接種していく方向に向かっていくと思うが、そのための場所のテント、椅子、机そういったものが必要になると思う。また、新たなものが考えられると思うが、十分配慮して先へ先へと進めて欲しい。

中山議員 令和3年度についてもいろいろな事業を実施することになっているが、去年と違ってある程度事業を動かしていく必要もある。しかし、緊急事態宣言下の中では厳しいし、2月からワクチン接種が実施され、終息に向かっていけば問題ないが、難しいと思う。区役所として令和3年度の編成予算の中で、事業を実施する・しないの線引きの考え方や影響額をどのように見込んで予算を組んでいるのか。

高田区長 市の予算全体が非常に厳しい中で、区づくり予算として昨年同額を確保する案とさせていただいております。従来のやり方で積算した区民まつり等のイベントもございます。状況を見ながらやめるという選択肢もありますし、オンラインを活用した開催ですとか、やり方を変えることを視野にいれながら執行しなくてはなりません。非常に難しい予算執行になると思いますが、先生方に相談しながら考えていきたいと思っています。

備 考	
-----	--